

私の好きな言葉は、臥薪嘗胆である。

人の人生は（私の人生もそうだが）一筋縄ではいかないものだ。良い時もあるが悪い時もある。浮かぶ時もあるが沈む時もある。

沈みそうになった時、沈んだ時に思う言葉は臥薪嘗胆である。昔、中国の春秋時代に、戦いで大敗し、父を殺された若い王は、その敗戦を心に刻んだために、毎日固い薪の上に寝て、毎日苦い胆を嘗めて、捲土重来を期していた。

私も経歴としては医大入学まで順調だったが、かもしれないが、その後順調だったとは言いがたい。塾を始めてからも、浮き沈みはある。生徒が不本意な結果に終わってしまった時、経営難に陥った時。あたかも深海の底に沈みかけた船の中にいてまだ生きていけるような気分の時、いつかはきつと浮上するぞと思いつて生きている。臥薪嘗胆の若い王は、何年もの後の戦いで見事勝利し仇を討つ。私も逆境にあっても臥薪嘗胆、いつか克服して生きている。